

事後評価シート

調査研究課題名	環境負荷の少ない都市・国土構造に関する研究
担当者	研究調整官 桐山孝晴、研究官 片岡孝博・権藤公貴
当初目標と目標達成度	<p><全国における地域別 CO₂ 排出量の比較分析> 実施計画に掲げたとおり、CO₂の排出量を地方生活圏別・部門別（民生・運輸）に推計することができた。また、各部門における重回帰分析を行うことで、排出量に影響する要因を明らかにすることができた。</p> <p><仙台都市圏における施策効果分析> 実施計画に掲げたとおり、都市構造・交通・民生施策による CO₂ 排出量削減効果について、CO₂ 排出モデルを構築して、各種施策の組み合わせを考慮したシミュレーション分析を行うことにより、各施策について効果を定量的に評価することができた。</p>
調査研究内容の妥当性	<p><全国における地域別 CO₂ 排出量の比較分析> データ収集にあたっては、既存の統計資料や公表資料を中心に集めたが、電力やガス等はヒアリングによらざるを得ず、困難があった。重回帰分析は、変数の選び方において、政策変数と相関係数のバランスのとり方に難しさがある。</p> <p><仙台都市圏における施策効果分析> 交通部門 CO₂ 排出モデルにおいては、仙台都市圏パーソントリップ調査に基づく交通行動モデルに改良を加え、より正確なシミュレーションを行うことができた。しかし、物流については、十分なデータがないことから、その挙動を把握した分析はできなかった。</p>
調査研究の仕組みの妥当性	<p>4名の有識者を招聘し、研究会を設立した。民生・交通の分野別にワーキンググループを別途設け、研究会では総論、WGでは各論といった、それぞれの専門について細かく議論いただき、有意義な意見をいただいた。</p>
成果と活用（予定）	<p>地方生活圏別の CO₂ データは従来なかったものであり、排出量抑制の施策立案へ大きく役立てることが可能であり、今後の国土構造のあり方を考える上でも大いに意義のあるものとなった。14年度は、都市モデルについて CO₂ 以外の環境負荷および社会的・経済的な評価項目を加え、施策効果をより多面的、総合的に評価する手法を構築する予定である。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・5月には省内で「政策課題勉強会」、6月には「土木計画学研究会」にて発表。 ・機関紙「PRI Review 第4号（2002年春季）」に概要を掲載し、省内外の関係者へ配布。 ・報告書を省内外の関係者へ配布および研究所 HP にて公開（予定） ・仙台市、宮城県に報告（予定）